

令和 3 年度モニタリング結果

シカの生息状況の把握、捕獲実施地域の選定、捕獲数の設定、捕獲の効果検証のため、令和 3 (2021) 年度は、モニタリングとして、生息状況調査、捕獲個体調査を実施した。

1. 生息密度調査

1.1. 方法

生息密度を把握するために、糞粒法調査を令和 3 (2021) 年 12 月 8 日～10 日に実施した。

調査は、本計画の対象地域である管理地区 (D地区) のうち市街地を除く 19 メッシュ (2km メッシュ) の他、B地区に 2 メッシュ、C地区に 3 メッシュ、合計 24 メッシュを設定し、実施した (図 1)。

調査メッシュ内の森林に設定した調査地点において 1m 四方の方形区を 110 個設定し、方形区内の糞粒数を全てカウントする方法を用いた。カウントした糞は、新旧にかかわらず、糞の形状を保っている全てである。

カウントした糞粒数から、ニホンジカの生息密度を推定するプログラム「FUNRYU PaVer2」(池田・岩本, 2004、2013 年 6 月版) を用いて生息密度の推定を行った。

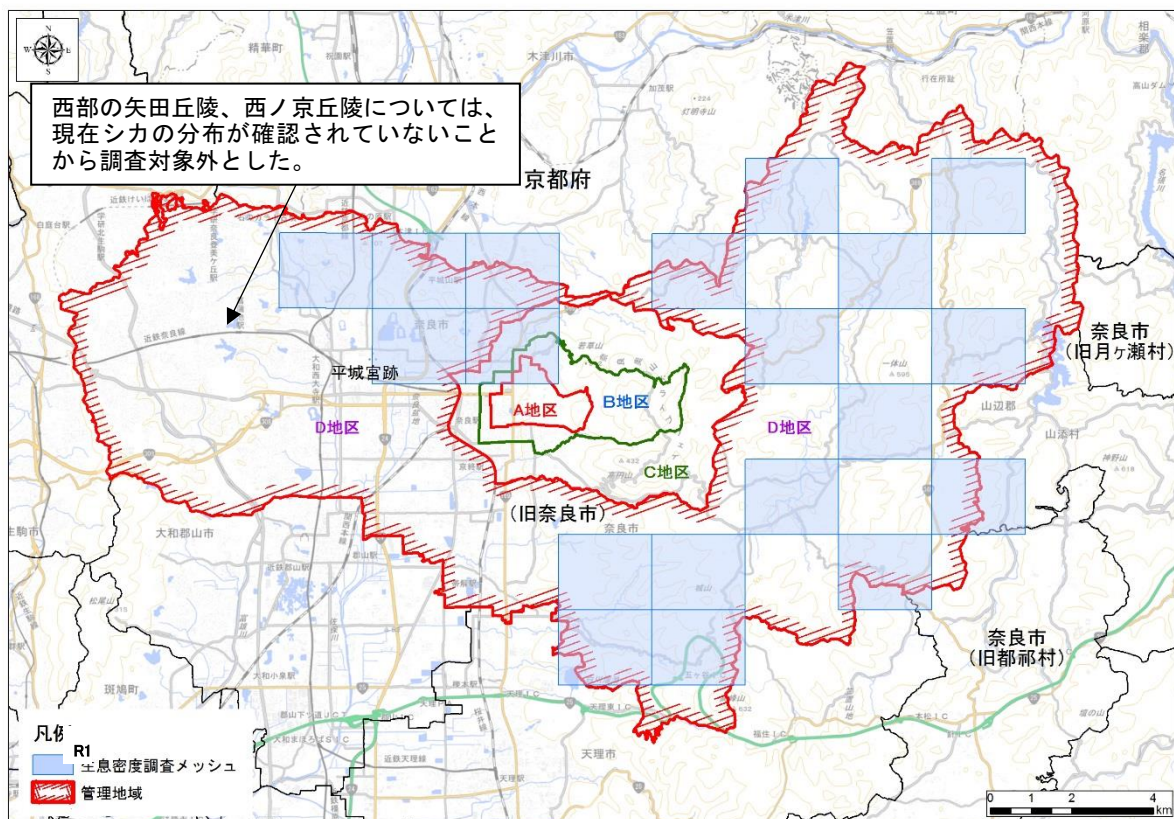


図 1 令和元年度に実施した糞粒法調査の地点 (出典：地理院地図に加筆)

1.2. 結果

令和3（2021）年度のD地区の平均生息密度は、11.7 頭/km²（標準偏差 12.6）であり、過年度調査結果の傾向と大きな変化はなかった（表 1）。

表 1 今年度及び過年度の生息密度の推定値

年度	平成 28 (2016)	平成 29 (2017)	平成 30 (2018)	令和元 (2019)	令和 3 (2021)
平均生息密度（頭/km ² ）	13.6	9.4	22.8	11.5	11.7
標準偏差	32.3	18.0	35.7	14.8	12.6

※ 令和2（2020）年度は調査を実施していない。

2. 捕獲個体調査（栄養状態の把握）

2.1. 方法

捕獲個体の記録用紙に記載されていた捕獲時の体重について雌雄別、年齢別に集計し比較した。

2.2. 結果

体重の平均値について、雌雄別、年齢別に示した（図 2）。雌雄ともに各年齢区分で過年度と大きな違いはなかった。

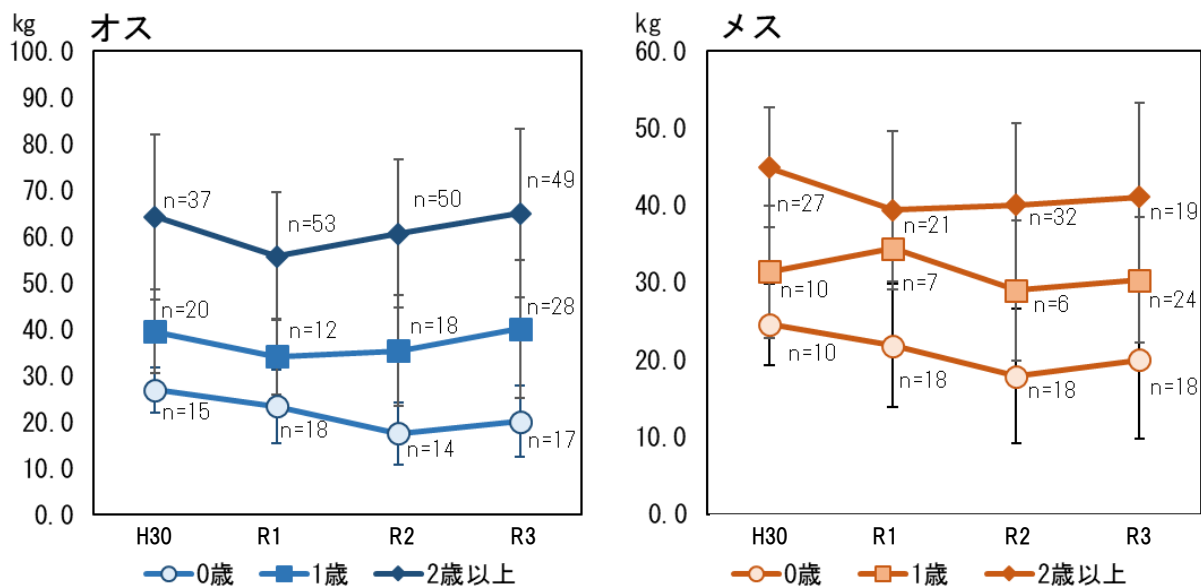


図 2 捕獲個体の雌雄別・年齢別の平均体重の変化

※ 点は平均値を、点から上下に延びる直線は標準偏差を表している。